

平成27年度小国町立小国中学校教育計画方針重点等

1 本校の教育目標

白い森の国おぐにを愛し、たくましく、心豊かで、生きぬく力を身につけた小国人の育成

- 1 目標に向かって、根気強く、やりぬくたくましい生徒
- 2 豊かな心を持ち、互いに助け合って成長する生徒
- 3 確かな学力を身につけ、課題解決にあたる生徒

2 めざす学校像

『あいさつ・合唱・ボランティアで感動をよぶ学校 小国中学校』

3 めざす教師像

めざす生徒像に向かって、温かな思いで、生徒に寄り添い、根気強く、急がず、褒めながら、生徒を変え続ける教師

4 経営の方針

- (1) 事故防止及び危機回避をすべてに優先するものとし、安全安心な学校づくりをすべての教育活動の前提とする。
- (2) 生徒指導の三機能を基盤とし、「小国中学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめのない学校にする。
- (3) 『あいさつ・合唱・ボランティアで感動をよぶ学校 小国中学校』といえる取り組みを進める。
- (4) 体力の実態を踏まえ、強みを伸ばす体力づくりを進める。
- (5) ユニバーサルデザインの視点の取り入れた授業改善をすすめ、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、「思考力、判断力、表現力」の向上を図る。
- (6) 小中高一貫教育「おぐにスタンダード」への取り組み推進し、小中高一貫教育の構想に沿った教育を推進する。
- (7) 通常学級における特別支援教育を重視し、一人一人の障がいや気質に応じた対応を進める。
- (8) コミュニティースクールの趣旨を生かし、学校経営に保護者や地域の意見を反映させるとともに、地域と協働する取り組みを進める。
- (9) 計画指導を切っ掛けとし、本校教育活動の再点検を図る。
- (10) 教育公務員としての自覚と使命感を持ち、服務規定の遵守と自己研鑽に努める。

5 経営の重点と具体策

1 目標に向かって、根気強くやりぬくたくましい生徒に向けた重点と具体策

- (1) 自らの命を守る教育の充実
 - ・いのちの教育の継続と推進
 - ・生徒、保護者、地域と連携した通学指導及びスクールバス通学保護者による乗車指導
- (2) 望ましい生活習慣を身につけさせる取組の充実
 - ・「おぐにスタンダード」及びに沿った家庭生活の改善の取り組みの小中連携による推進
 - ・「人間力向上8箇条」を踏まえ、かつPTAとの連携を一層重視した取り組み
 1. 朝食をしっかりと食べる、1. 毎朝排便、1. 遅刻をしない、1. 授業で寝ない、
 1. 汗をかく運動、1. 毎日勉強は2時間、SNSは1時間以内、1. 風呂に入る、
 1. 睡眠は7時間
- (3) 健康教育の充実
 - ・健康診断後の精検や治療のすすめの継続
 - ・食育教育全体計画に基づいた食育指導の充実
- (4) 体力テスト全国比較52.5以上を目標とした体力の向上
 - ・『キビキビ行動ハキハキ返答』の体育の授業

- ・冬の合同部活動『炎のトレーニング』の実施
 - ・体力課題に対応したクォータートレーニング（Qトレ）の実施
 - ・「おぐにスタンダード」体力づくりの小国小学校と連携した取組
- (5) つけたい力を明確にした部活動の充実
- ・部活動でつけたい力（「誰が来ても（整列し）あいさつ」「返事」「キビキビ行動」）の共通指導
 - ・部活動改廃基準の学校運営協議会の決定による運用
- (6) 清掃活動の充実
- ・清掃リーダー指導
 - ・担当教師の清掃開始時の見とどけと活動中・活動後の称賛の継続

2 豊かな心を持ち、互いに助け合って成長する生徒に向けた重点と具体策

- (1) 学級経営の充実と学校を休まない子どもにするための取組
- ・生徒指導の3機能（自己存在感、共感的人間関係、自己決定）＋自尊感情を高める学級経営
 - ・学級経営『小国中スタンダード』に沿った学級指導
 - ・不登校及び別室登校生徒それぞれの担当者会の開催と専門機関との連携
 - ・「自分を見つめて」アンケートの実施と校内対応の明確化
 - ・ハイパーQ Uテストの実施と結果の活用のための研修
 - ・教科担当者会の実施
- (2) 豊かな「かかわり合い」ができる体験活動
- ・運動会、修学旅行、CSW、文化祭など行事における感動体験の重視
- (3) 道徳教育の充実
- ・仲間のよさに目を向けさせる指導
 - ・相手を思いやる言動の指導
 - ・いじめの早期発見と組織的早期対応
- (4) 生徒会活動の充実
- ・「合唱」「ボランティア」の指導の継続と「あいさつ」の指導の充実
 - ・「五あいさつ運動」の取組『相手より先に五あいさつ』
 - ※おはようございます、こんにちは、おねがいします、ありがとうございます、ハイ
 - ・あいさつ運動のPTAと生徒会の連携の推進
- (5) 校内外生活、生徒会などの場で、生活上の問題を課題化する力の向上と自治力の育成
- ・「生徒心得」の見直しの継続と年度当初の指導による規範意識の醸成
 - ・生徒会、自治会における問題予防及び課題対応
- (6) 特別支援教育の充実
- ・特別支援学級の進路を意識したカリキュラム作成とそれに沿った指導
 - ・通常学級における特別支援教育の重視
 - ・講師を招聘しての職員研修会の開催
 - ・必要な生徒に対する個別検査のすすめ

3 確かな学力を身につけ、課題解決にあたる生徒に向けた重点と具体策

- (1) 一層のわかる楽しい授業をめざす。
- ・授業を生徒の立場から、「分かり感のある」楽しい授業の展開
 - ・授業における聞き方、話し方指導
- (2) 全国学力学習状況調査及びNRTの結果を活かした個に応じたきめ細かな指導
- ・NRTを全学級、全教科で52.5以上、全国学力調査全国平均＋5%以上を目標とした取組

- ・教科担任が生徒一人一人の学力を保障する授業の展開及び教科経営
 - ・学級担任による学習習慣の確立
- (3) 基礎的・基本的事項の確実な習得のための取組の充実
- ・学年で身につけさせたい事項についての全校テストとそれに向けた取組の充実
 - ・一貫教育で進める算数・数学科の取組の推進
 - ・週14時間、定期テスト部活中止期間は1日5時間を目標とした家庭学習
 - ・長期休業中の学年学習会の時間の確保
 - ・白い森学習会の積極的活用
 - ・T T授業及び習熟度別学習の活用
- (4) 読書活動の充実
- ・週時程への読書の時間の確保と『50分読書』の取組
 - ・読書活動推進プロジェクトの趣旨を生かした図書館教育の継続
 - ・目標読書量の設定とその達成のための取組
 - ・家庭での読書の機会の啓蒙
- (5) 応募活動の重視
- ・計画的応募活動の継続
- (6) 教師の指導力を向上する。
- ・年3回の全員参加研究会の他、その他の職員による「1ペーパー授業研」の実施
 - ・志水教授による授業診断と研究会の開催
- (7) メディア教育の充実
- ・情報機器の更新計画と情報教育の推進
 - ・H28山形県メディア教育研究協議会に向けての校内研修の推進
- 6 今日の課題に対する学校としての考え方と取り組み
- (1) 6教振を踏まえた学校づくり
- ①生徒同士の好ましい人間関係づくり
 - ・ハイパーQ Uテストを活用した授業と学級づくり。
 - ・豊かな「かかわり合い」ができる体験活動
 - ②性(いのち)教育の推進
 - ③全保護者と共同によるあいさつ運動の推進
- (2) キャリア教育の充実
- ①家業体験の実施、CSWの実施、②2年立志式による進路意識の向上、③社会で働く方や卒業生の講話、④進路意識を高める三者面談の実施
- (3) 小中高一貫教育の内容の精選とゆとりの中で一貫教育の推進
- ・一貫教育『おぐにスタンダード』の理解と共通実践
- (4) 地域から信頼される学校をめざす。
- ・県のいじめ調査実施とその対応方針に添った対応
 - ・生徒会3本柱による町内への発信
 - ・学校だより等、HPによる生徒の活動の情報提供
- (5) コミュニティースクールの推進
- ・学校経営に保護者や地域の意見を反映する取組
 - ・学校サポーター制等、地域と協働し、地域と共にある学校づくりの推進